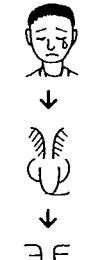


悲

三年 画数 12
筆順 ヒ オン クン
かな＝しい＝しむ

成り立ち

△ 悲  悲

鳥の「つばさ」の形をあらわした「非」と、心ぞうの形をあらわした「心」とを組み合わせて作った字です。つばさは左と右と「はんたい」がわについていて、「はんたい」にひらくので、「非」は「はんたいになる」といういみの字です。

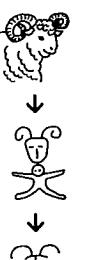
だから、「悲」は、「ものごとが、心にのどむところとはんたいになり、がっかりすること」をあらわしています。「かなしむ」こと。また、「かなしい」こと。仏教では、「あわれみの心」といういみにつかいます。

例 悲悲。

美

三年 画数 9
筆順 オン クン ビ
かな＝美しい
うつくし

成り立ち

△ 美  美

△ 羊(3年 431)「という字と「大きい」といういみの「大」と組み合わせて作った字で、「大きな羊」といういみの字です。まるまるとこえた大きな羊は、見た目には「うつくしく」見え、食べると「おいしい」ので、「うつくしい」といういみや、「おいしい」といういみにつかわれます。例 美人、美食。

△ りっぱ「とか」「すぐれている」といういみにもつかわれます。例 美名、美德、美点。

△ まだ、「ほめる」といういみにもつかわれます。例 賛美、嘆美。

三年

四〇一

使い方

△ わが家でかつていた犬が死にました。悲しくて、涙が出そうになりました。裏庭に、お墓をつくって、お花をそえておきました。

△わたしは悲しい話を聞くと、すべ泣きたくなつてしましました。

熟語例

△ 悲話(悲しい話。あわれな物語。「はなやかなできごとのかけにも、たくさん人の悲話がかくされている」などというふうに、つかいます。)

△ 悲劇(悲しい物語を劇にしたもの。また、そこから悲しいでき事のいみにもつかいます。「シェークスピア」の悲劇のなかでは『ハムレット』が一番すきです」などというふうに、つかいます。)

△ 悲惨(悲しく惨めなこと。「戦争の悲惨な爪あと」などというふうに、つかいます。)

使い方

△ こうえんには、たくさん人の美しい花が咲いていました。△ 西の空はまつかで、夕やけ雲が美しくうかんでいました。

熟語例

△ 美人(美しい女人)

△ 美食(おいしい食べもの。「美食家」といえば「おいしいものを食べるのがとくべつすきな人」ということです。)

△ 美名(りっぱな名前や、よいひょうばん。「美名にかけて、こつそりわるいことをやつてている人もいる」などというふうに、つかいます。)

△ 美徳(りっぱな徳。すぐれた人がら。「かずかずの美德をかねそなえたりつぱな人」などというふうに、つかいます。)

△ 美点(いいところ。長所。「この人の美点は、すなおさにあります」などというふうに、つかいます。)

△ 賛美(ほめること。「賛美歌」といえば、とくに、キリスト教で、神さまやキリストをほめたたえる歌をいいます。)

四〇三